

普及活動情勢報告（令和7年2月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

新たな新規就農者の確保に向けて ～地域おこし協力隊員への地域推奨品目「ユズ・ニラ」栽培研修会～



いの町吾北地域における半農半Xの担い手を確保するため、12月26日、いの町役場と農業改良普及課が連携して、本川地区の協力隊員4名に対し、吾北の推奨品目「ユズ・ニラ」の研修会を開催しました。いの町農業公社において、役場からは研修の目的を、農業改良普及課からはユズやニラの栽培について、各ほ場で研修を行い、地域の農業を知ってもらいました。

参加者からは「ユズを植えているが、剪定の仕方を知りたい」、「消毒方法等は？」等の質問がありました。

次年度も、今回研修に参加できなかった3名の協力隊員の方と新規着任者に対して引き続き研修会を開催し支援していきます。

農福連携の実現を目指して！ ～農福連携土佐文旦収穫体験会の開催～



1月14日、土佐市甲原の文旦農家のほ場で、障がい者が参加した収穫体験会を開催しました。当日は、就労継続支援B型事業所や土佐市社会福祉協議会の支援を受けている3人の他、農福アドバイザーや土佐市、JA等の関係機関を含む総勢14人が参加しました。

このイベントは、地域計画策定座談会に参加していた農家の「農福連携に関心がある」との発言をきっかけに、農業改良普及課が関係者に呼びかけて実現しました。今回の取組が、土佐市の支援農家の掘り起こしと農福連携の実現に繋がることを期待されます。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して、農福連携の実現を目指します。

地域の農地を守るために、集落営農組織が誕生しました ～いの町沖田集落営農組合設立～



1月18日、沖田集落営農組合（任意組織）が組合員7名、賛助会員約24名を構成員として設立されました。

いの町沖田地区では、地域の農地を守るため令和5年度から組織化に向けた準備を進めて来ましたが、農業改良普及課は、県内集落営農法人の事例紹介や視察を実施して集落営農の理解増進を図るとともに、組織の経営計画作成を支援しました。

組合員からは「検討会を重ねて組織を設立することができた」、「2年後には法人化を計画しているので、今後も学習を進めていく」等の声がありました。令和7年は沖田地区の約4.6haで協業経営と部分受託を実施予定です。

農業改良普及課は、設立間もない組織の運営が円滑に進むよう支援していきます。

令和6年の高温に耐えた柑橘たち
～ 土佐市地区柑橘果実品評会の開催 ～



1月30日、土佐市地区柑橘果実品評会がJA高知県仁淀川営農経済センターで開催されました。

令和6年は暖冬と夏期の高温乾燥等により、落葉果樹や多くの柑橘類にとって大変厳しい栽培環境となりました。

農業改良普及課は気象変化に合わせた防除やかん水指導を行い、生産者も弛まぬ努力を重ねた結果、土佐市の主力果樹である土佐文旦は、平年並の収量と果実品質を維持することができました。

生産者は、「年々栽培が難しくなっているが、ここまでやっと漕ぎ着けた」と安堵した様子でした。

農業改良普及課は、今後とも気候変動に対応できるように気象情報の提供や栽培技術指導を実施していきます。